

みずほマーケット・トピック(2018年5月25日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

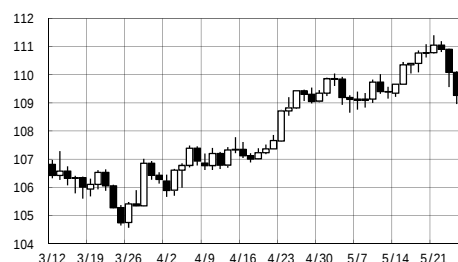
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半に急落する展開。週初 21 日に 110 円台後半でオープンしたドル/円は、週末に行われた米中通商交渉で中国側が輸入を増やすことを約束との報道を手掛かりに週高値となる 111.39 円をつけた。その後は対資源国通貨を中心にドル売りの流れが強まったため 110 円台後半まで値を下げ、22 日も米金利の上昇が一服する中で 111 円を挟んだ小幅なレンジ内で推移した。23 日は前日に開催された米韓首脳会談でトランプ米大統領が米朝首脳会談の延期を示唆したことから、北朝鮮情勢の緊迫化が懸念されドル/円は 110 円台前半まで下落。さらに米 10 年国債利回りが節目と見られる 3.0%を下回る展開に 109 円台半ばまで続落した。しかしながら、トルコ中央銀行(CBRT)の緊急利上げ実施を受けてトルコリラ(TRY)が急伸し、新興国経済の先行きに対する不安が和らぐ中、ドル/円は 111 円前半を回復した。24 日はトランプ大統領が自動車関連製品の輸入に対して追加関税の賦課を検討していることを発表し、リスク回避姿勢が強まったため 109 円台半ばまで反落。さらにトランプ大統領が米朝首脳会談の中止を公表すると週安値となる 108.96 円まで値を下げた。その後はやや反発したものの上値は重く、本日のドル/円は 109 円台前半で推移している。
- 今週のユーロ/ドル相場は上値重く推移。週初 21 日に 1.17 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、イタリアのポピュリズム政党「五つ星運動」と極右「同盟」が前週末 18 日に連立政権樹立に向けた政策で合意と報じられる中、新政権への警戒感からイタリア国債利回りが急上昇する展開を横目に 1.17 台前半まで下落。その後はドル売りの流れが強まったため 1.17 台後半まで反発し、22 日はイタリア国債利回りの低下を受けて、週高値となる 1.1830 まで続伸。しかし、イタリアの次期経済財務相の候補としてユーロ懐疑派として知られるサボナ氏を検討との関係者談を受けて 1.17 台後半まで反落した。23 日はユーロ圏およびドイツの 5 月製造業 PMI が予想を下回ったことを材料に週安値となる 1.1676 まで続落。24 日は ECB の政策理事会議事要旨(4 月 25 ~ 26 日開催分)の公表を控えて、ユーロ売りポジションを手仕舞う動きが強まり 1.17 台前半を回復。その後は米朝首脳会談を巡るヘッドラインに振られ、本日のユーロ/ドルは 1.17 台前半で推移している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		5/18(Fri)	5/21(Mon)	5/22(Tue)	5/23(Wed)	5/24(Thu)	
ドル/円	東京9:00	110.85	110.90	111.00	110.74	109.89	
	High	111.08	111.39	111.18	110.92	110.09	
	Low	110.61	110.82	110.80	109.56	108.96	
	NY 17:00	110.75	111.04	110.90	110.08	109.25	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1790	1.1765	1.1789	1.1788	1.1709	
	High	1.1822	1.1796	1.1830	1.1789	1.1751	
	Low	1.1750	1.1717	1.1757	1.1676	1.1691	
	NY 17:00	1.1772	1.1791	1.1778	1.1698	1.1721	
ユーロ/円	東京9:00	130.71	130.47	130.86	130.55	128.68	
	High	131.11	131.00	131.33	130.65	128.86	
	Low	130.25	130.39	130.60	128.24	127.73	
	NY 17:00	130.39	130.88	130.68	128.76	128.05	
日経平均株価		22,930.36	23,002.37	22,960.34	22,689.74	22,437.01	
TOPIX		1,815.25	1,813.75	1,809.57	1,797.31	1,775.65	
NYダウ工業株30種平均		24,715.09	25,013.29	24,834.41	24,886.81	24,811.76	
NASDAQ		7,354.34	7,394.04	7,378.46	7,425.96	7,424.43	
日本10年債		0.06%	0.06%	0.06%	0.05%	0.05%	
米国10年債		3.06%	3.06%	3.06%	2.99%	2.98%	
原油価格(WTI)		71.37	72.35	72.20	71.84	70.71	
金(NY)		1,292.60	1,292.60	1,291.14	1,293.39	1,304.61	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・来週、米国では29日(火)には5月コンファレンス・ボード消費者信頼感指数の発表があり、前月の128.7から127.9へ低下する見込みだ。既に発表されている5月ミシガン大学消費者マインド(速報)は98.8と前月から横ばいとなっている。6月1日(金)には5月雇用統計の発表があり、非農業部門雇用者数(NFP)は前月比+19.0万人(4月:同+16.4万人)と予想されている。1~3月期は例年よりも温暖な気候を受けてデータが振れたが、4月はそうしたノイズがはく落し、NFPの伸びは巡航速度に近いペースに回帰したとみられる。関連指標を確認すると、週次の失業保険統計では、雇用統計調査週(12日を含む週)の新規失業保険申請件数は横ばい、ニューヨーク連銀およびフィラデルフィア連銀で発表された5月製造業景気指数の雇用DIは改善している。失業率に関しては3.9%、週平均労働時間は34.5時間とそれぞれ前月から横ばいとなる見通しだ。注目が集まる時間当たり平均賃金は前月比+0.3%と4月の同+0.1%から加速すると見込まれている。金融政策関連では、今晚にパウエルFRB議長が講演を行うほか、30日(水)には次回FOMC(6月12~13日開催)での討議資料となる地区連銀経済報告(ページブック)が公表される。
- ・本邦では、31日(木)には4月鉱工業生産(速報)が発表される。3月の生産は前月比+1.4%(2月:同+2.0%)と2か月連続で増加したが、1月に同▲4.5%の大幅減産となった反動増の域を出ない。四半期でみると、1~3月期は前期比▲1.3%と8四半期ぶりの減産となった。もっとも、製造工業生産予測調査をみると、4月は前月比+3.1%と3か月連続の増産が計画されているほか、経済産業省による予測指数がもつ傾向的な部分を補正した試算値でも同+1.4%と増産が見込まれている。生産に関連する統計を確認すると、4月の実質輸出は前月比+5.1%(2月:同▲2.0%)と3か月ぶりに増加し、企業マインド指標は前月から悪化したものの、水準としては引き続き高めで推移している。こうした中、市場では4月の鉱工業生産指数は前月比+1.5%と予想されている。

	本 邦	海 外
5月25日(金)	_____	・独5月Ifo企業景況指数 ・ユーロ圏財務相会合 ・米4月耐久財受注(速報) ・米5月ミシガン大学消費者マインド指数(確報)
28日(月)	・4月企業向けサービス価格	_____
29日(火)	・4月労働力調査	・米3月S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格 ・米5月消費者信頼感指数
30日(水)	_____	・米5月ADP雇用統計 米1~3月期GDP(2次速報) ・ページブック 米5月シカゴ購買部協会景気指数
31日(木)	・4月鉱工業生産(速報) ・4月新設住宅着工	・ユーロ圏4月失業率 米ユーロ圏5月消費者物価(速報) ・米4月個人所得・支出 ・G7財務相・中央銀行総裁会合(~6月2日)
6月1日(金)	・5月自動車販売台数	・ユーロ圏5月製造業PMI(確報) ・米5月雇用統計 米4月建設支出 ・米5月ISM製造業景気指数

【当面の主要行事日程(2018年6月~)】

米FOMC(6月12~13日、7月31日~8月1日、9月25~26日)

ECB政策理事会(6月14日、7月26日、9月13日)

日銀金融政策決定会合(6月14~15日、7月30~31日、9月18~19日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

経済指標カレンダー (2018年5月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 自動車販売台数(4月) 米国 建設支出(3月) 米国 ISM製造業景気指数(4月) 米国 FOMC(～2日)	2 日本 マネタリーベース(4月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、4月) ユーロ圏 失業率(3月) ユーロ圏 GDP(速報、1～3月期) 米国 ADP雇用統計(4月)	3 日本 憲法記念日 ユーロ圏 消費者物価指数(速報、4月) 米国 貿易収支(3月) 米国 製造業受注(3月) 米国 耐久財受注(確報、3月)	4 日本 みどりの日 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、4月) 米国 雇用統計(4月) 米国 失業率(4月)	
7 ドイツ 製造業受注(3月) 米国 消費者信用残高(3月)	8 ドイツ 貿易収支(3月) ドイツ 鉱工業生産(3月)	9 日本 毎月勤労統計(3月) 日本 景気動向指数(速報、3月) 日本 生産者物価(4月) 米国 卸売売上高(3月)	10 日本 国際収支(3月) 日本 貸出・預金動向(4月) 日本 景気ウォッチャー調査(4月) 米国 財政収支(4月)	11 日本 マネーストック(4月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、5月)	
14 日本 国内企業物価(4月)	15 日本 第三次産業活動指数(3月) ドイツ GDP(速報、1～3月期) ユーロ圏 鉱工業生産(3月) ユーロ圏 GDP(確報、1～3月期) 米国 小売売上高(4月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(5月) 米国 企業在庫(3月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(3月)	16 日本 GDP(速報、1～3月期) 日本 鉱工業生産(確報、3月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、4月) 米国 住宅着工(4月) 米国 鉱工業生産(4月)	17 ユーロ圏 貿易収支(3月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(5月) 米国 景気先行指数(4月)	18 日本 全国消費者物価(4月) ユーロ圏 経常収支(3月)	
21 日本 貿易収支(4月) 米国 シカゴ連銀全米活動指数(4月)	22	23 ユーロ圏 製造業PMI(速報、5月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、5月) 米国 新築住宅販売(4月) 米国 FOMC議事要旨(5月1～2日開催分)	24 ドイツ GDP(確報、1～3月期) 米国 中古住宅販売(4月)	25 日本 東京都都区消費者物価(5月) ドイツ IFO企業景況指数(5月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) 米国 耐久財受注(速報、4月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、5月)	
28 日本 企業向けサービス価格(4月)	29 日本 失業率(4月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(3月) 米国 消費者信頼感指数(5月)	30 米国 ADP雇用統計(5月) 米国 GDP(2次速報、1～3月期) 米国 個人消費(2次速報、1～3月期) 米国 PCEコアデフレーター(2次速報、1～3月期) 米国 ペーシェブック 米国 シカゴ購買部協会景気指数(5月)	31 日本 鉱工業生産(速報、4月) 日本 新設住宅着工(4月) ユーロ圏 失業率(4月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、5月) 米国 個人消費・所得(4月) ウイスラー(カナダ) G7財務相・中央銀行総裁会合(～6月2日)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー (2018年6月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 自動車販売台数 (5月) ユーロ圏 製造業PMI (確報、5月) 米国 雇用統計 (5月) 米国 失業率 (5月) 米国 建設支出 (4月) 米国 ISM製造業景気指数 (5月)	
4 日本 マネタリーベース (5月) 米国 耐久財受注 (確報、4月) 米国 製造業受注 (確報、4月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI (確報、5月)	6 日本 毎月勤労統計 (4月) 米国 貿易収支 (4月)	7 日本 景気動向指数 (速報、4月) ドイツ 製造業受注 (4月) ユーロ圏 GDP (確報、1～3月期) 米国 消費者信用残高 (4月)	8 日本 国際収支 (4月) 日本 GDP (確報、1～3月期) 日本 貸出・預金動向 (5月) 日本 景気ウォッチャー調査 (5月) ドイツ 貿易収支 (4月) ドイツ 鉱工業生産 (4月) 米国 卸売売上高 (4月) シャルルボワ (カナダ) G7首脳会議 (～9日)	
11 日本 マネースtock (5月)	12 日本 国内企業物価 (5月) 日本 第三次産業活動指数 (4月) 米国 財政収支 (5月) 米国 FOMC (～13日)	13 ユーロ圏 鉱工業生産 (4月) 米国 生産者物価 (5月)	14 日本 金融政策決定会合 (～15日) 日本 鉱工業生産 (確報、4月) ユーロ圏 ECB理事会 (開催場所未定) 米国 小売売上高 (5月) 米国 企業在庫 (4月)	15 ユーロ圏 貿易収支 (4月) ユーロ圏 消費者物価指数 (確報、5月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数 (6月) 米国 鉱工業生産 (5月) 米国 ミシガン大学消費者マインド (速報、6月) 米国 TICレポート (対外対内証券投資) (4月)	
18 日本 貿易収支 (5月)	19 ユーロ圏 経常収支 (4月) 米国 住宅着工 (5月)	20 米国 中古住宅販売 (5月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数 (6月) 米国 景気先行指数 (5月)	22 日本 全国消費者物価 (5月) ユーロ圏 製造業PMI (速報、6月) ユーロ圏 サービス業PMI (速報、6月) ユーロ圏 財務相会合 (ルクセンブルク)	
25 ドイツ IFO企業景況指数 (6月) 米国 シカゴ連銀全米活動指数 (5月) 米国 新築住宅販売 (5月)	26 日本 企業向けサービス価格 (5月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格 (4月) 米国 消費者信頼感指数 (6月)	27 米国 耐久財受注 (速報、5月)	28 米国 GDP (3次速報、1～3月期) 米国 個人消費 (3次速報、1～3月期) 米国 PCEコアデフレーター (3次速報、1～3月期)	29 日本 失業率 (5月) 日本 東京都都区消費者物価 (6月) 日本 鉱工業生産 (速報、5月) 日本 新設住宅着工 (5月) ユーロ圏 消費者物価指数 (速報、6月) 米国 個人消費・所得 (5月) 米国 ミシガン大学消費者マインド (確報、6月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数 (6月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2018年5月23日	イタリア政局の現状と展望～論点整理～
2018年5月22日	「双子の赤字」と整合的なドル安予想
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年4月分)
2018年5月21日	上がらない米インフレ期待から何を読むべきか？
2018年5月18日	週末版(続・米金利上昇の余波を受ける新興国について～金融市場は「我慢比べ」の段階に～)
2018年5月17日	軟化するユーロ相場の現状と展望について
2018年5月16日	次期NY連銀総裁の考える中立金利の在り方について
2018年5月15日	APPの総括と今後の展望～仏中銀総裁講演を受けて～
2018年5月14日	米金利上昇の「負の側面」～家計・企業・海外～
2018年5月11日	週末版
2018年5月10日	最近のユーロ圏経済の失速について
2018年5月9日	海外企業買収と円相場について
2018年5月8日	米金利上昇の余波を受ける新興国について
2018年5月2日	メインシナリオへのリスク点検～通商政策リスクは顕在～
2018年5月1日	日銀金融政策決定会合～市場は「誤解」してきたのか？～
2018年4月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げはユーロ高との戦いに～)
2018年4月26日	米10年金利「3%」をどう解釈するか
2018年4月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～微修正の決断はまだ先～
2018年4月24日	ECB政策理事会プレビュー～重要決定前の露払い～
2018年4月23日	節目を迎える投機ポジション～短期目線に振られるべからず～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年3月分)
2018年4月20日	週末版(日米首脳会談を終えて～「古くて新しい問題」とライトハイザー対策～)
2018年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～強まった警戒色～
2018年4月17日	日米首脳会談プレビュー～見るべきポイント～
2018年4月16日	為替政策報告書の正しい読み方～論点の整理～
2018年4月13日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～明確なユーロ高懸念～)
2018年4月12日	続・残業代規制の影響～閣議決定を受けて～
2018年4月11日	ユーロ/ドル相場の値動き分析～金利差の観点から～
2018年4月10日	為替政策報告書プレビュー～中長期的に咀嚼すべき～
2018年4月9日	円相場の基礎的需給環境～米金利上昇に頼れず～
2018年4月6日	週末版(保護主義とドル安の関係性～日本に求められる交渉戦略～)
2018年4月5日	ドイツに非はないのか～貿易戦争で考える立ち位置～
2018年4月4日	想定為替レートと実勢相場の関係について
2018年4月3日	クラウディング・アウトとLIBOR-OISスプレッド～新たな懸念～
2018年4月2日	外貨準備構成通貨の現状(17年12月末)～第二次多様化～
2018年3月30日	週末版(日米金利差「3%」はトリガーなのか～3つの注意点～)
2018年3月27日	ユーロ圏経済は本当に盤石なのか？
2018年3月26日	メインシナリオへのリスク点検～安直な円安予想の終わり～
2018年3月23日	週末版(FOMCを終えて～名実共に「引き締め」局面へ～)
2018年3月20日	ECBは来年、利上げするのか？～関係筋発言を受けて～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年2月分)
2018年3月16日	週末版(実質実効為替相場で見ると各国通貨の現状～気まずい「円」の立ち位置～)
2018年3月15日	第4次メルケル政権発足を受けて～ポスト・メルケル時代～
2018年3月13日	ドイツバブルを警戒すべきか？
2018年3月12日	経験則からイメージするドル/円相場の「波」
2018年3月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～現状追認とポスト・ドラギの胎動～)
2018年3月8日	通貨安競争でドルに勝てる者なし～標的になりやすい円～
2018年3月7日	ECB政策理事会プレビュー～APP「規模」拡大を排除か？～
2018年3月6日	「製造業の採算レート」から何を読み取るか？
2018年3月5日	黒田総裁発言を受けて～今だから出来るチャレンジ～
2018年3月2日	週末版(四面楚歌のドル/円相場～円高見通しの確度は高まるばかり～)
2018年2月27日	メインシナリオへのリスク点検～円高リスクとしての米金利上昇～
2018年2月26日	ECB役員会人事の読み方～今後への含意など～
2018年2月23日	週末版
2018年2月22日	FOMC議事要旨(1月30～31日開催分)～試される胆力～
2018年2月21日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年1月分)
2018年2月20日	2017年の対米証券投資(TICレポート)について
2018年2月19日	スタグフレーション懸念という誤解～最近の相場動向について～
2018年2月16日	週末版(本当にブレグジットは大丈夫なのか？～不穏な「第二段階」のスタート～)
2018年2月15日	ドル/円相場の水準感～円高はまだ始まったばかり～
2018年2月14日	2017年の基礎的需給環境～4年ぶりの円買い超過に～
2018年2月13日	黒田総裁続投について～「戦術」よりも「戦略」の修正を～
2018年2月9日	週末版
2018年2月6日	やはり正しかったカーブのフラット化が示した不安な未来
2018年2月5日	浮き彫りになった円安見通しの「決定的に駄目な部分」
2018年2月2日	週末版(遂に到達した「利上げの終点」～米金利は頭打ちか、それとも続伸か～)
2018年2月1日	FOMCを受けて～パウエル新体制を待つ「茨の道」～
2018年1月30日	メインシナリオへのリスク点検～危うい米通貨・通商政策～
2018年1月29日	ECB政策理事会の読み方～通貨高けん制が効かない理由～
2018年1月26日	週末版
2018年1月24日	日銀金融政策決定会合を受けて～消化試合の様相～
2018年1月23日	IMF世界経済見通し修正を受けて～米国一本足打法～
2018年1月22日	トランプ誕生1年を振り返る～「カーブフラット化と株価急騰」～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年12月分)
2018年1月19日	週末版
2018年1月18日	ECB政策理事会プレビュー～タカ派傾斜は心配無用～
2018年1月17日	日銀金融政策決定会合プレビュー～最後の展望レポート～
2018年1月16日	低下する米家計貯蓄率をどう読むべきか？
2018年1月15日	4か月ぶり安値をつけたドル/円相場と需給環境について
2018年1月12日	週末版(ダウンサイドリスクが広がるユーロ相場～議事要旨の強気を受けて・・・)
2018年1月11日	中国の米国債購入減速・停止報道の読み方
2018年1月10日	ステルスステッピングの「お目こぼし」はここまでか？
2018年1月9日	米12月雇用統計～改善が極まりつつある米経済指標～
2018年1月5日	週末版(外貨準備構成通貨の現状(2017年9月末時点)～ユーロ比率は明確に反転～)
2018年1月4日	2018年の勘所～概観、注目イベント、キーワード～
2017年12月27日	ドル調達コストの急騰について
2017年12月26日	ユーロ圏の与信・物価環境に見る域内格差
2017年12月25日	日本人の「現金好き」と円相場の関係について
2017年12月22日	週末版
2017年12月21日	バフェット指標に見る過熱感～株価vs. 経済成長～
2017年12月20日	3度目のカンシュカリ・エッセイを受けて